

多田ヶ嶺

平成30年1月号

発行 小浜第二中学校 電話52-2918

☑ 小浜二中「学校日誌」 今年も毎日更新します

新年明けましておめでとうございます

校長 西川 芳夫

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年中は保護者や地域の皆様に温かい御支援をいただきましたこと、心から厚くお礼申し上げます。本年も教職員一丸となり、お子様の健やかな成長を願い、精一杯の努力を続けてまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願ひします。



本日は3学期の始業式でした。おかげ様で、生徒たちは大きな病気や事故もなく、無事に3学期のスタートを切ることができました。始業式では「しめ縄づくり」の写真を見ながら、3学期の大切さについて次の話をしました。

お正月の飾りにしめ縄がありますが、しめ縄の作り方を知っていますか？しめ縄の縄づくりは学校の1学期、2学期、3学期に似ています。

最初、わらの束二つをよじりながら丁寧に編んでいきます。そこに三つ目のわらの束をより一層丁寧に編み込んでいきます。この最後の三つ目を編み込む時にしっかりと編み込んでいかないと、すぐにほどける弱い縄になってしまいます。つまり、三つのわらの束がしっかりと編みあがってこそ1本の強い縄ができあがるのです。体育祭の綱引きで使う綱も縄と同じづくりです。三つ目の束を丁寧にしっかりと編み込むことで、みんなが全力を出して引っぱってもびくともしない強い綱ができあがるのです。



最初の二つの束を1学期・2学期。そして三つ目の束を3学期と考えると、3学期は1学期と2学期をまとめあげ、1年間を締めくくり完成させるとても大切な学期なのです。

1・2学期がんばってきたことをさらに伸ばすとともに、まとめをしっかりとし、3年生は自分の目標進路に向かって、1・2年生は新しい学年につないでいきましょう。

お正月の1月3日、昭和63年度卒業生の同窓会が小浜で開かれました。今から30年前の二中の卒業学年で、私が担任をしていた学年です。地元に住んでいる卒業生から小浜市外や県外に住んでいる卒業生まで大勢集まりました。現在の二中の保護者も大勢参加していました。二中卒業から30年ぶりに再会した卒業生もいました。卒業生も私もお互いに年を重ねてきましたが、タイムスリップしたかのように若かりし当時のままで会話がはずみました。卒業生も私もお互いに当時のことをふり返り、今の自分を見つめ直す機会となり、これが同窓会のよさだとあらためて感じました。

卒業生は誰もが母校である二中のことを懐かしみ、今でも二中を愛し、二中学生に期待を寄せる気持ちが伝わってきました。「二中学生は今、どうですか？」「二中の部活動は相変わらず今も強いですか？」「二中学生、今もがんばっていますね」…等々、昔話に花が咲くとともに、今の二中を温かく励ましてくれました。

当時の二中学生は、自分が二中学生であることに強い誇りを持っていたように感じます。「私は二中学生」…だから、どんなことでも乗り越えていける、どの学校にも負けないし、自分自身にも負けないという力強い二中魂。生徒はもちろんのこと我々教師もそういった二中魂なるものを持っていたのではないかと思います。延々と引き継がれていく二中魂。どうか、現在の二中にもその強い思いが引き継がれていくことを切に希望したいと思います。

生徒指導主事担当 山下和彦

1月24日～30日は全国学校給食週間です。1月26日には、給食感謝集会も行われます。毎日いただいている給食に目を向け、調理員さん達への感謝の気持ちを表すとともに、成長期にある自分の食生活や栄養について考える機会にしてほしいです。特に3年生は残り2ヶ月です。二中の給食を今まで以上に味わいながら、いただきましょう。



インターネットを使うとき、こんなことをしていませんか？

私たちの生活を便利で豊かなものにしてくれるインターネットですが、使い方についての知識やモラルが不十分だと、思わぬトラブルに巻き込まれたり、人権侵害を受けたりする可能性があります。また、メールや掲示板などに一度掲載した情報については、完全に削除することが難しいです。

最近では、SNSや無料通信アプリによるトラブルが発生しており、深刻な事件につながることもあります。日頃から、ネット上での情報収集や情報発信には責任を持ち、怪しいサイトにはアクセスしないなど、自分から危険に近づかないようにすることも大切です。次のチェックをご家庭でしてみてください。

✓CHECK

- 匿名だから何を書き込んでもいいと思っていないですか？
- 悪口や差別的な書き込みはしていませんか？
- うそやうわさを書き込んでいませんか？
- 暴力的な言葉を書き込んでいませんか？
- 安易に自分の写真や情報を載せていませんか？
- 知り合いの住所やメールアドレスを無断で書き込んでいませんか？
- 心当たりのないメールに返信していませんか？
- チェーンメールを転送していませんか？
- 出会い系サイトにアクセスしていませんか？
- ID、パスワードの管理をいいかげんにしていませんか？
- よく確認しないまま、添付ファイルを開いていませんか？
- インターネット上の情報をうのみにしていませんか？
- SNSで知り合った人と会おうとしていませんか？
- フィルタリングなしでインターネットを利用していませんか？



小浜二中

検索

毎日更新中!



- ・毎月、お忙しい場合は、サインや一言でも結構ですので**必ず提出**して下さい。
- ・保護者の声については次号で紹介させて頂くことがあります。ご了承ください。

二中学校だより

多田ヶ嶺 1月号 保護者の声 _____ 年 組 保護者氏名 _____

生徒会コーナー

生徒会担当 古田哲也

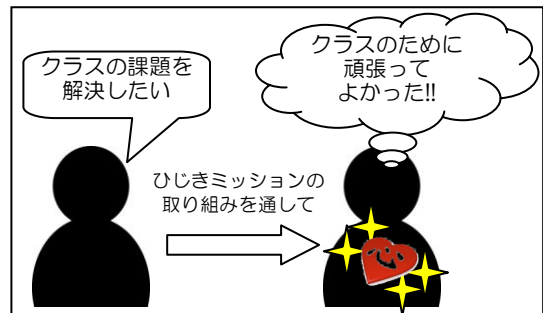
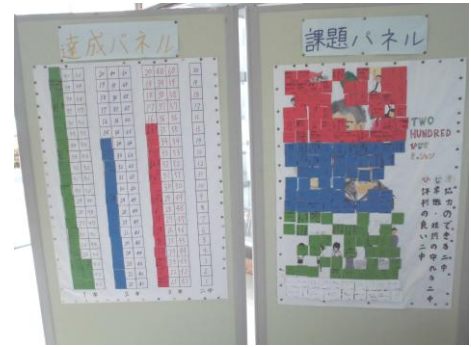
【ぶれずに取り組んでほしい】

現在の自分のクラスのひじきミッションの達成度はどんな状況でしょうか？12月の終わりにひじきミッションのふり返しを行いました。改めてふり返してみると、5月に設定したミッションが現在のクラスの状態には合っていないかったり、前回より達成率が下がっていたり、逆に意外な項目が達成できていたり・・・様々な変化があったと思います。

少し話はそれますが、毎年学校では多くの行事が開かれます。思い浮かべてみてください。遠足、体育祭、合唱コンクール、球技大会・・・思うような賞や順位が取れなくても、目標達成を目指してクラスで一生懸命取り組む過程があれば、最後には達成感や充実感を味わえるのが行事の良さです。

さて、このひじきミッションですが、ミッションを達成することが本当の価値ではありません。学校行事と同様に、課題を克服するためにクラスや個人の意識などの内面(=心)が変化することに真の価値があります。行事とは違って成果が見えにくいのですが、最後に「クラスが良くなってよかった」「良いクラスになった」と思えるような取り組みにしましょう。また、ひじきミッションの内容も「当たり前のことを当たり前に行えるようになるため」の項目ばかりです。もし全てのミッションを達成できたら、さらに素敵な学校になること間違いなしです。

3学期は1年間のまとめの時期です。クラスの雰囲気も3学期の終わりに向けて高まっています。ミッション達成に向けての意識と可能性が最も高められるこの時を逃してはいけません。無言清掃の完成を目指して前向きに取り組めるエネルギーをもつ中学生なら、多くのミッション達成に向けて努力してくれると期待しています。



委員会コーナー

二中清掃革命

二中清掃の新しいカタチ

保健整美委員担当 内藤 祐太郎

「心を静め、場を清めます。黙想。」

二中の清掃はこのアナウンスと共に始まります。わずか20秒間の黙想ですが、学校全体が静まり、心地よい緊張感が生まれます。黙想で心を落ち着けることで、スムーズに清掃を始めることができます。昨年10月の生徒総会において、執行部から二中清掃の現状と課題点が発表されました。課題の多くは「清掃中のムダ口」が原因であるため、無言清掃に取り組み始めました。

12月にとった無言清掃アンケートでは“清掃に集中できる”“開始と終了の時間が意識できている”“しゃべる人やサボる人が少なくなった”という意見が多くありました。一方で“話さずにアイコンタクトで行うのは無理”“掃除の話は良いのではないか”という意見もありました。取り組み方を大きく変えたのですから、いろいろな意見が出て当然です。ですが、この3カ月間を通して「ムダ口が減り、清掃に集中できるようになった」ことは確かな手応えとして感じています。執行部が「最初のペンギン」となって清掃改革を提唱し、中学生全員で実行したことは大きな成果として現れ始めています。

二中学校だより

多田ヶ嶺 1月号 生徒の声 _____ 年 組 氏名

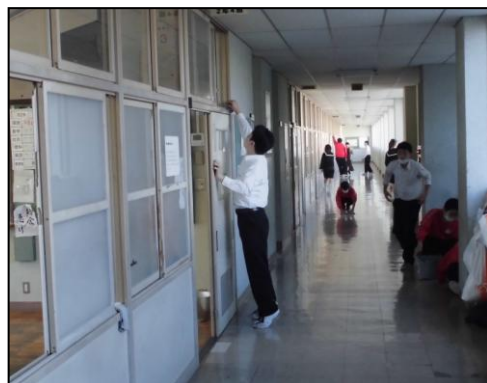
自分で考え、気付くこと —永平寺中での清掃体験—

永平寺中学校(以下、永中)は清掃活動に力を入れており、無言清掃が学校文化として深く根ざしている学校です。11月に二中を代表する20名の生徒が永中を訪問し、清掃を見学・体験させていただきました。

永中の清掃の取り組みは“同じ中学生と思えない”と二中学生が感じるほど素晴らしいものでした。移動はかけ足でムダがなく、しゃべり声も聞こえません。聞こえるのは雑巾がけをする足音だけです。校長先生は、「次どこを拭くのか、誰が先に拭き出すのか。永中の生徒もきつとしゃべりたいと思っている。しかし聞きたいことをぐっと我慢して、考える。自分が先に行動すれば解決することがほとんどだから、お互いが考え、気付き、動くことが大切。」とおっしゃっていました。永中生のムダのない洗練された動きの秘密は、一人ひとりが考え率先して動く姿勢だったのです。

永中の清掃には「+α」という時間が設けられています。この時間は、窓の棧や椅子の脚、棚の後ろなど自分で掃除が必要な場所を考え、掃除をします。どの生徒も暇をもて余すことなく、自分で考えて、気付き、行動しています。まさに目から鱗でした。これこそが二中学生が目指すべき姿だと思いました。二中の無言清掃の取り組みは、非常に効果的です。しかし、無言になることは清掃本来の目的ではなく、清掃に集中するための手段に過ぎません。清掃本来の目的は

「汚れている所をきれいにすること」です。そのために、汚れている場所を予想したり探したりする視点が必要です。+αに真剣に取り組むことは、この視点を身につけるために打ってつけの活動です。



自主的と主体的 +αのスズメ

自主的と主体的、意味の違いについて聞かれたら皆さんはどう答えますか。「自分から動くこと」と考えた人もいるでしょう。「自分から動くこと」に関しては、どちらの意味にも当てはまりますが、自主的と主体的とは大きく違う点があります。

■自主的…やるべきことが明確な状況で、その行動を人に言われる前に自ら行う様子。

■主体的…やるべきことが明確でない状況で、自分で考え、判断して行動する様子。

ピンとききましたか。清掃を例に考えてみましょう。教室掃除ならば、
整列→黙想→縦拭き5本→横拭き5本→すみ拭き1本→… やるべきことが明確です。清掃中にやるべきことを先生の指示や注意をされずにできる人は「清掃を自主的に行う人」です。それでは「清掃を主体的に行う」とはどういうことでしょうか。それはズバリ、+αの活動です。やるべき掃除を終えた後、自分で考えて+αに取り組む人は「清掃を主体的に行う人」です。

無言清掃に取り組み始めてから、掃除を自主的に行う人が増えました。「当たり前なことを当たり前でできる人」は信用されます。信用される人は社会で活躍できます。しかし、自主性ばかりに偏ると、やるべきことしかやらない、いわゆる「指示待ち人間」になります。「先生、終わりました。次何すればいいですか。」「先生、そんなこと言われてないです。」こんな言葉をよく耳にします。やるべきことが明確でない状況で、指示を待ち続けるか、自ら考え行動するか…あなたの主体性が問われるところです。

自分で考えることって面倒くさい…と思うかもしれません。しかし、主体的ということは本来楽しいことです。私が中学生の頃、学校が早く終わる、部活動もない、特に予定もない(やるべきことが明確でない)、そんな日は家で何をして遊ぼうかなどワクワクしたことを憶えています。小学校の頃、自分達でルールを考えてドッジボールもしました。自分で考えるから楽しく、達成感や充実感もあります。+αの時間もそのように捉えると、「やらされている退屈な清掃」というイメージから抜け出せるかもしれません。「どこを掃除してよいかわからないよ。」と思う人もいますが、周りを見てみましょう。きっと清掃の達人がいるはずです。最初は真似ることから始めましょう。2月には今富小学校の児童が二中の清掃を見学に来ます。10分間の清掃にひたむきに取り組むことが二中の当たり前の文化となり、それが小学校にも広がっていくことを期待しています。

